（1）　昭和37年6月5日

いわむろ

発行所　岩室村役場　No. 2
印刷所　巻・北洋印刷KK

川をきれいに

西川，その他の川や堤防をゴミ捨場にしているところがたくさんあります。これは，見た目にきたないだけではありません。衛生の面からも，非常に危険なことです。西川は農業用水のほか，沿岸の各町村が上水道の水源にしています。その他の川水も同様にいろいろの役に立つています。最近の吉田町の赤痢集団大発生のような事故を防ぐためにも，伝染病の出やすい梅雨時を，健康に明るく過ごすためにも，大切な川水をいつもきれいにしておきましょう。

7月1日は参議院選挙

参議院は、衆議院と共に議会政治の車の両輪のようなものです。どちらの輪が欠けても、日本の民主主義は、ほろびてしまいます。日本国憲法に明らかにされている国民の主権を、私たちの代表が行使するいわゆる代表民主制を原則にした、民主主義のおおもとになるところです。

議員は、全国選出議員の一〇〇名と、地方選出議員の一五〇名合わせて二五〇名で構成されています。任期は六年で、半数の任期がずれていますので、七月一日に予定されている選挙には、全国区五〇名、地方区七五名が選出されるわけです。新潟県の地方区定員は二名になっています。

衆議院は、任期中に解散があることが多く、一年の間に二度も解散があって、総選挙が行なわれたこともありますが、参議院には解散ということはありません。それだけに、立派な人を選ぶ必要があるわけです。

参議院がゆがめられた姿になったのには、国民の無関心ということが影響していると考えられます。今までの選挙の投票率は、衆議院の総選挙に比べると常に一〇%以上もひくく、前回の第五回通常選挙では五〇%を下廻っており、（岩室村では約六五%）地方選挙に比べるとさらに低いのであります。

ボスまかせといわれますが、それだからこそ、よい人がだんだん出なくなり、また国民の冷淡さが自然に議員の良識を傷つけ、無責任を助長する結果ともなりかねないことに注意しなければなりません。

とかく参議院の選挙は軽視されがちでありますが、一度選んだ議員は、どんなに不適任な者でも、いやでも六年間は在任しますから、これから配られる選挙公報や回覧などをよく読まれて、公正明朗な選挙が行なわれるようにこころがけましょう。

国や県市町村の選挙管理委員会が中心になって公明選挙運動が真剣に進められています。一切の不明朗な行為を排除して、清い一票を正しく行使した、すがすがしい気持ちのよさをみんなで味わいましょう。

火の用心

四月、五月の二ヶ月間に、岩室村内に三件の火災がありました。そのうち二件は煙突の火の粉がもとです。今年はお天気続きで、乾燥していますので、ちょっとしたことから火事になりやすい状態が続いていますから、お互いに、火の元には気をつけましょう。

煙突の先端には、必ず火の粉除け装置をつけ、特に燃えやすい、かやぶきや、板ぶきの屋根では、できるだけ煙突を高くして、少しでも屋根からはなすように心がけて下さい。煙突掃除や破損修理には、常に気を配って万全を期して下さい。

時局講演会

「私たちの生活と政治」

一、とき　6月15日　午後2時～3時30分
二、ところ　岩室中学校
三、講師　成沢猛氏　新潟日報編集局長

婦人学級の開講記念講演でありますが、時局講演会として、ひろく御案内いたします。政治のいろいろの動きと私達の毎日の生活が、どんなに密接に結びついているかということを、ジャーナリストとしての成沢先生からお話しをしていただきます。お誘い合わせてどうぞ。

主催　岩室村公民館
岩室村選挙管理委員会

消防車はモシモシ62番

もし、火事が出た時は、消防機関へ「早く‼正確に」知らせることが、被害を少なくする最大要件です。

◎消防自動車の出動要請は電話62番へ
場所を確実に知らせて下さい。

◎同時に、役場又は支所へ場所と状況を、おちついて確実に伝えて下さい。

消防団からお願い

部落内道路で、樹木の枝が道路上へはり出して、消防自動車などの通行のじゃまをしているところがあります。地上八尺以下の枝は切って、非常の際に消防自動車が事故なく、一秒でも早く現場へ行けるよう御協力をお願いします。

あなたの老後を守る 国民年金

2年目を迎えた拠出制
国民年金についてひと言

家庭内における老人の座が不安定になつてきた

人間年をとると働けなくなる。これは誰でも常識でわかることですが、現在、七十才以上の老人は約三〇〇万人います。このなかで自分の収入で生計を営んでいる恵まれた人はたった一七%に当る五一万人で、八三%に当たる二五一万人が家族の人や親類縁者に頼って生活している実情です。一方、戦後の家族制度の変革によって、親族扶養の観念はとても薄くなってきたのはよくいわれることですが、右にあげた数字は、親族扶養の観念が薄れてきたのにもかかわらず親族による扶養以外に生活をする方法がないので仕方なしに家族制度の伝統に頼っていることを示しているといえます。今日、老人の座は昔ほど坐り心地のよい安定したものではないことはわたし達ひとしく見聞するところですが、それだからとて現在の若い人が昔の若い人ほど孝行者でないと一概にいいきることはもちろんできません。戦後生活が一般にきびしくなった上に、若い人には当然面倒をみなければならない妻とか子供がいるのが普通で、親子の情において忍びがたいものがあっても、金銭的余裕がないために、やむを得ず手が及びかねているというのが通常の姿だろうと思われます。このきびしい現実が若い人との間に意志の疎通を妨げています。家庭内のトラブルを引きおこしています。出生率の低下と平均寿命ののびにともなう国民の老令化はますますこの傾向を強め、トラブルを激化することになります。これが現実だとすれば、老人の座の居心地を云々するよりも、まず年老いた後の自分の生活は自分で配慮し、足りない部分は若い人の援助によるのだという頭に切り替えが必要になりますが、これは現在の若い人々が自分の子や孫との関係において今から考えておかなければならないことです。これを側面から援護する国の対策――これが国民年金制度です。（つづく）